

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
作業療法演習 I-1		必修	1	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
中西 康祐 他	C310	knakanishi	水曜日 5 時限		
授業の目的・概要	作業療法演習 I-1 では、1 年生で習得した専門知識の定着と体系的理解、および、ICF を用いた生活モデルを基盤とした作業療法評価、統合と解釈までの習熟を目標とする。なお、授業は web によるオンラインも活用して理解し、その後、メディアを通じたフィードバック等により理解を深める。				
学習上の助言	本科目では 1 年次で学習した解剖学・生理学・運動学ならびに作業療法専門科目で修得した知識をベースに、生活・環境的視点および症候学的視点で事例検討する。 事例の背景因子の理解や訴えから実際の評価など、作業療法過程の一部を習得することが求められる。そのため、学習計画の立案と実行が求められる。				
教科書	ICF 国際機能分類 ー国際機能分類改訂版ー 編：障害者福祉研究会 中央法規出版 2008				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	1 年生で学んだ専門知識が定着し作業療法評価に生かせる			OT(2)(3)	
②	これまで学んだ知識を生かして作業療法の評価計画の立案、評価の吟味と解釈ができる			HSU(3)、OT(2)(3)	
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション (ポートフォリオの使い方を学ぶ。確認試験の解説を聞き要点をおさえる。)	講義	事前学習として教科書を読み、事後学習は教科書、資料等を深める。	1	
2	事例基盤型学習 (ICF の基礎を学ぶ) フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：提出期限内に実施	印刷教材等での授業	課題：ICF の基本的分類について調べる。	3	
3	事例基盤型学習 (ICF の活用方法を学ぶ①) フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：提出期限内に実施	印刷教材等での授業	課題：事例を用いて ICF 分類を実施する。	3	
4	事例基盤型学習 (ICF の活用方法を学ぶ②) フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：提出期限内に実施	印刷教材等での授業	課題：事例を用いて ICF 分類を実施する。	3	
5	事例基盤型学習 (個人因子、環境因子を中心に ICF を用いて事例情報を整理する) ① 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	事例の検討事項に関する概略を確認しておくこと。	1	
6	事例基盤型学習 (個人因子、環境因子を中心に ICF を用いて事例情報を整理する) ② 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	事例の検討事項に関する概略を確認しておくこと。	1	
7	事例基盤型学習 (活動、参加を中心に ICF を用いて事例情報を整理する (1)) ① 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	事例の検討事項に関する概略を確認しておくこと。	1	
8	事例基盤型学習 (活動、参加を中心に ICF を用いて事例情報を整理する (1)) ② 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	事例の検討事項に関する概略を確認しておくこと。	1	
9	事例基盤型学習 (活動、参加を中心に ICF を用いて事例情報を整理する (2)) ① 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	事例の検討事項に関する概略を確認しておくこと。	1	
10	事例基盤型学習 (活動、参加を中心に ICF を用いて事例情報を整理する (2)) ② 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	事例の検討事項に関する概略を確認しておくこと。	1	

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

11	事例基盤型学習（活動、参加、心身機能・身体構造、健康状態を中心にICFを用いて事例情報を整理する）① 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	事例の検討事項に関する概略を確認しておくこと。	1
12	事例基盤型学習（活動、参加、心身機能・身体構造、健康状態を中心にICFを用いて事例情報を整理する）② 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	事例の検討事項に関する概略を確認しておくこと。	1
13	事例基盤型学習（心身機能・身体構造、健康状態を中心にICFを用いて事例情報を整理する）① 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	事例の検討事項に関する概略を確認しておくこと。	1
14	事例基盤型学習（心身機能・身体構造、健康状態を中心にICFを用いて事例情報を整理する）② 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	事例の検討事項に関する概略を確認しておくこと。	1
15	事例基盤型学習（提示された事例のポイントを踏まえて、全体像をまとめ、焦点化する） 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	事例の検討事項に関する概略を確認しておくこと。	1
試				

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		70	0	20	10	0	100
総合力指標	知識・技術力	70	0	5	0	0	75
	思考・推論・創造する力	0	0	10	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	5	0	0	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	10	0	10

評価のポイント

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
試験	①	✓	試験に向けた学習教材を事前配布し、それに類するものを出題する。試験後もしくは総括にて実施
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
レポート	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
成果発表	①	✓	事例検討の演習において、指導教員からその場でフィードバックする。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
ポートフォリオ	①	✓	ループリックに従って内容を評価する。期限までの提出がなければ、減点とする。その都度実施する。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
その他	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

備 考

5 回目からは Teams を使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wifi 環境を推奨する。
今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更もあり得る。
また、クラスごとの演習となるため、シラバスの変更および日程変更の可能性がある。その場合は、クラス担当の教員よりアナウンスする。

この科目の単位修得が作業療法演習 I-2 の履修要件になる。

担当教員：◎中西康祐、小沢健一、榎田哲弥、山鹿隆義、浅野克俊、海保享代、池谷政直

教員の実務経験：各教員は作業療法士として様々な臨床経験を有している。

実践的授業の内容：臨床実践を行う演習・実習のため、各教員が臨床で培った経験を活かし、作業療法技術はもちろんのこと、作業療法において最も重要となる統合と解釈・目標設定の思考プロセスを学習する。